1. 制作意識の再構築

第一節　自分への「問い」

第一項 ガラスとの出会い

第二項 操る楽しさ

第三項 デザインと素材

第四項 コンプレックス

第五項 なぜガラスで作るのか

第二節　過去の自己作品に対する考察

第一項　アートワークと工芸

第二項　技法について

第三項　環境について

第三節　日常を変える

第一項 学ぶ時間

第二項 縛りを作る

第三項 場を変える

第四項 プロセスを変える

第五項 気付き

第二章　ガラスを使う理由

第一節　ガラスの特性

第一項 動かない液体　動く固体

第二項 割れる

第三項　透明性

第四項　流動性

第二節　ガラス造形技法

1. ホットワーク
2. キルンワーク

第三節　脆さを支えるもの

第三章　動きの表象

第一節　気配について

第一項 偏愛

第二項 過去と未来

第三項　０の概念

第二節　動勢

第一項 力感

第二項 素材の特性

第三項 機能

第三節　動く形と動きそうな形

第四節　動かす力

第一項　型で作る

第二項　エネルギー

第五節　動きを力に変えるもの

第一項 バネ

第二項 プロペラ

第三項 迷路

第七節　動きを止める構造

第一項 構造体

第二項 支える形

第四章　二つの世界が意味するもの

第一節　動と静

第二節　生と死

第三節　光と影

第四節　脆さと構造

第五節　両義性

第六節　二律背反

第七節　境界

中動態の意識

第五章　海外で制作すること

第一節　オーストラリア留学

第一項 シドニー芸術大学

第二項 キャンベラ生活

第二節　アメリカ滞在制作

第三節　ガラスアーティストとの交流

第四節　日本文化再考

第一項 侘び寂び

第二項 幽玄美

第三項 用の美

第四項 静寂

第六章　ガラスのための技法

第一節　キルンワークについて

第二節　従来の技法

第三節　陶芸、鋳金の技法

第四節　ガラスを熔かす

第五節　動く型

第六節　アルミナファイバーによるソフトモールド

第七節　ガラスを組み立てる

第八節　耐火微粉末によるパウダーモールド

第七章　修了作品について

第一節　Coilシリーズ

第二節　静寂の造形

第三節　Antinomyシリーズ

結章

中動態の藝術